令和２年度特色ある学校づくり推進事業報告書

『知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指した体験活動』

あま市立伊福小学校

１　目的

（１）豊かな心を育む活動

・　合唱発表会での表現活動などを通して、感性を豊かにし、表現することの喜びを味わわせます。
・　専門家や地域の人材を活用して、林間学校をより充実した活動にしたり、学校田畑を生かした学習や食育を展開したりします。
・　特別支援学級において、音楽療法を取り入れ、児童の情操を育むだけでなく、教師もその指導技術を学ぶことで指導力の向上を図ります。

（２）自分の命は自分で守る子を育てる活動

・　自然災害や人災、大地震に備え、さまざまな状況を想定した訓練や、発達段階に応じた防災学習を行い、子どもたちの防災意識を高めるとともに、教師側も学校防災について見直す機会をもちます。
・　交通事故や不審者から身を守る方法を身につけたり、事故や犯罪に巻き込まれないようにしようとする意識を高めたりしながら、自分の命は自分で守ろうとする態度を育成します。

（３）主体的・対話的で深い学びを目指す学級づくり、授業づくり活動

・　主体的、対話的で深い学びを実現すべく、その土台となる学級作りでは、どの子も安心して生活が出来るようＱＵによる学級改善を行う一方で、授業改善では一学年一研究授業への取組、算数における外部講師の招聘などを行い、学力向上につなげていきます。

２　内容

（１）　豊かな心を育む活動

ア　合唱発表会

合唱発表会は、本校の特色ある行事として定着してきましたが、今年度はコロナ禍で中止となりました。地域の感染状況が小康状態であるときは、放送・音響機器を活用しリモート全校合唱に取り組むなどしました。音楽の時間だけでなく毎日の朝の合唱練習も児童の心を豊かにするよい機会となりました。

イ　学校田畑を生かした学習

ビオトープを改良して作った田んぼでは、今年は規模を縮小して実施しました。ＪＡ海部東営農センターより苗を無償提供していただき、５年生による田植えや稲刈り、脱穀や籾すりを行いました。５年生のデイキャンプの際に収穫した米を自分たちの手で

飯ごう炊飯で味わいました。

ウ　特別支援教育の充実

音楽療法士の若山先生を講師に招き、コロナ禍で開始時期がずれましたが、年間で10回の音楽療法を行いました。数年前から実施している継続事業であり、伊福小の特別支援教育の特色でもあります。この音楽療法を続けることで、児童が明るく元気に表現する一面が見られるようになりました。新たな自分の発見にもつながっています。

（２）自分の命は自分で守る子を育てる活動

ア　防災教育

防災教育については、例年、関係団体と連携して、防災教室、キッズ防犯、ＡＥＤ心肺蘇生法講習会などを行っていましたが、コロナ禍でキッズ防犯以外は中止となり、担任による学年・学級指導に切り替えました。

イ　避難体制の充実

職員間の連絡手段としてトランシーバーの購入を進めており本年度で整備完了となりました。中止となった防災教育講師料を流用し、防災の部屋への避難経路を明るくきれいに整備しました。

（３）主体的・対話的で深い学びを目指す学級作り、授業作り活動

ア　ＱＵを取り入れた学級作り

主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、よい学級集団であることが前提となります。そのためにＱＵ調査を行い、各学級の状況を把握し、担任による学級への関わり方、個々の児童への関わり方を反省し、よりよい人間関係作り、学級集団作りに取り組みました。

イ　授業改革をめざす活動

日々の授業改善として、主体的、対話的で深い学びを実践すべく、一学年一授業研究授業に取り組む予定でしたが、コロナ禍でＩＣＴを活用した研修に切り替えました。ＷＩＴＨコロナの授業や効果的なＩＣＴの活用について研修を行いました。

３　評価

・　コロナ禍で制限はあったものの朝の合唱練習を通して、自己表現力、歌唱力などの向上とともに、豊かな心を育みました。
・　防災用のトランシーバーの整備が完了し、防災の部屋への経路を整備できました。
・　ＱＵでの知見を基盤として、学級経営を進め、同時にＩＣＴを活用した授業に取り組むことができました。また、音楽療法では、継続している効果が出ています。

４　課題

・　コロナ禍で外部講師を招くことが難しく、中間ヒアリングまで人件費を執行できませんでした。コロナ禍でも可能な事業に切り替えることが必要でした。
・　ＩＣＴを活用した授業、学校経営が一層求められる時代になりました。教職員が研鑽を積み、誰もが効果的な活用ができ、どの子も取り組める環境を整えたいと考えます。